



2017年度 行動計画



Yamagata University
Annual Plan 2017

3つの使命

社会における役割・存在意義
—何を成すために山形大学が存在するのか—

地域
創生

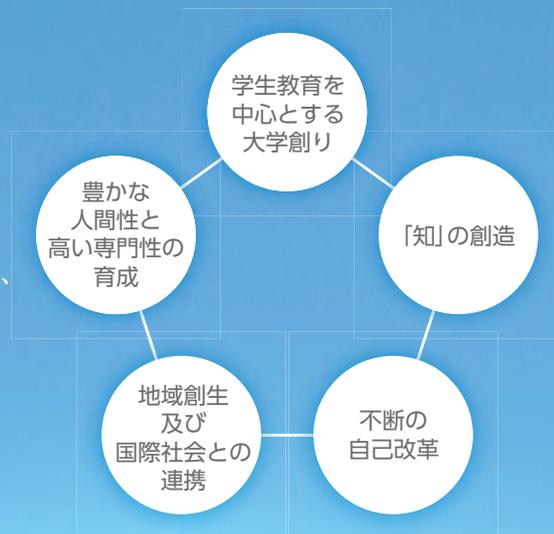
次世代
形成

多文化
共生

5つの基本理念

組織のあるべき姿
—役割を果たすために何を為すのか—

山形大学は、
「自然と人間の共生」をテーマとして、
右の5つの基本理念に沿って、
教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、
国際化に対応しながら、
地域変革のエンジンとして、
キラリと光る存在感のある大学を目指す。



「山形大学で学んで本当に良かった。」 そう言ってもらえることが私たちの願いです。

2017年度（平成29年度）の行動計画として「Annual Plan 2017」を策定しましたので、ここに公表します。

この4月、山形大学では新たな教育システムでの人材育成がスタートします。新教育方針での教育プログラムの編成、基盤教育改革を軸とした学士課程教育の体系化、学生の将来を意識した学部・大学院の改編など、大学教育の根幹をなす改革です。

背景にあるものは、急激かつ複雑に変化する社会情勢です。我々を取り巻く環境は、社会問題や技術革新など様々な要因が複雑に絡み合い、加速度的かつ予測し得ない大きな変化を遂げています。

この時勢に求められる大学の役割は、現状の社会を支える人材だけでなく、将来の社会をリードし、支える人材、言い換えれば、時空間での広い視野で時代の潮流を的確に捉え、かつ社会の変化を主体的にリードし、柔軟に対応できる能力を持つ人材の養成です。

本学が目指す学生教育とは、これら社会的要請に応える人材を育成することです。

一方、学生への教育を支える柱として、「高度な研究」と「健全な経営」が不可欠です。

良い教育の根底には、その裏付けとなる良質な研究が必要です。本学の900名の教員が常に最先端の研究を進めることにより、学生教育と有機的に結合し、より良い教育を展開することが可能となります。そのためには、教員の興味と意欲をかき立てる研究環境が重要となってきます。

また、国から独立した一機関である以上、良質な教育研究と同等に重要なことは、健全な経営です。大学財政は年々厳しさを増していますが、学生教育への投資を絶やすことはできません。あらゆる方策、多くの知恵を振り絞って、この危機を乗り越えていかなければなりません。

学生の可能性を見だし、引き出すこと。そして、学生に「山形大学で学んで本当に良かった。」と言ってもらえること。それこそが、山形大学が果たすべき役割であり、願いです。

今後も山形大学にご期待ください。

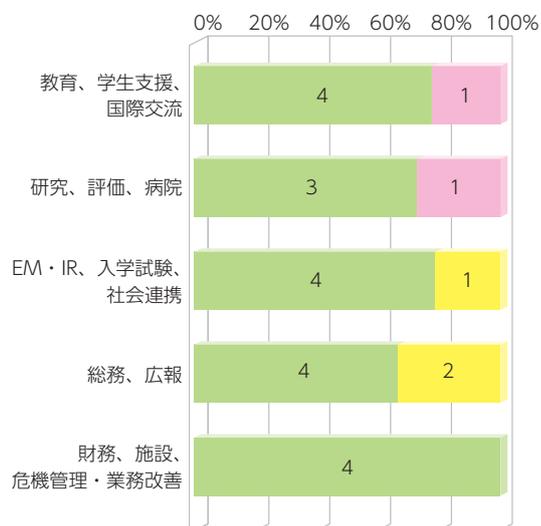
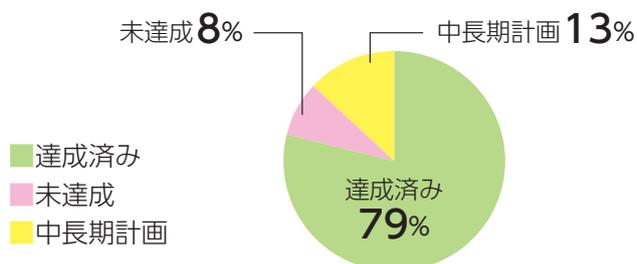


山形大学長

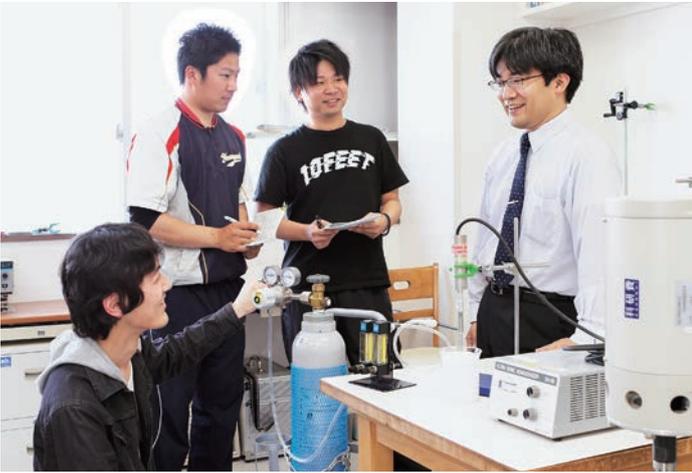
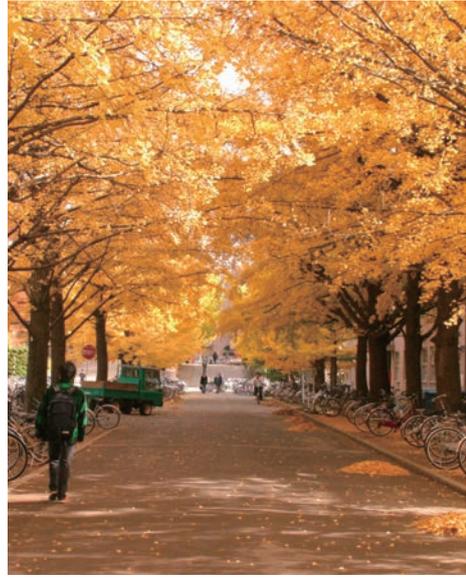
小山 清人

KOYAMA Kiyohito

Annual Plan 2016 の達成状況



Yamagata University Annual Plan 2017



CONTENTS

教育 学生支援 国際交流

担当理事・
副学長 安田弘法 ——— 6

研究 評価 病院

担当理事・
副学長 久保田 功 ——— 7

EM・IR 入学試験 社会連携

担当理事・
副学長 大場好弘 ——— 8

総務 広報

担当理事・
副学長 阿部宏慈 ——— 9

財務 施設

危機管理・業務改善

担当理事・
副学長 小島浩孝 ——— 10

教育組織の改編 ————— 11

教育 学生支援 国際交流

担当理事・副学長 **安田 弘法**
YASUDA Hironori



■基本方針

教養教育と専門教育を連動させた「新基盤教育」を基に学士課程教育の体系化と、大学院課程教育の充実・強化を図り、知・徳・体の調和がとれ、地域を創生し、多文化共生社会でも活躍する次世代形成の志ある人材を育成します。また、学生のニーズを的確にとらえて、学生生活が充実するよう手厚い支援を実施します。

2017年度 行動計画

PLAN 1

学生の主体的学修及び能動的学修を促進するため、課題解決型授業（PBL）の導入や既存科目をアクティブラーニング型授業及びフィールドワーク型授業へ転換した学生主体型授業を平成30年度に向けて30科目程度増やすための検討を行います。

PLAN 2

大学院課程において、専門分野を超えた幅広い教養や実践的能力、高度な人間力を育成するために、専攻や研究科の枠にとられない共通科目を平成30年度に8科目程度新たに開講する準備をします。

PLAN 3

学生の心身の健康を保持・充実させるため、学生委員会がアドバイザー教員や保健管理センターから収集した相談事例や健康状況を分析して情報交換し、学部等にフィードバックすることできめ細かな指導と手厚い支援に活かします。

PLAN 4

学生生活及び正課外活動を充実させるため、学生厚生施設や課外活動施設の整備、学生のサークル活動やボランティア活動等に対する物的・人的支援を5件程度行います。

PLAN 5

多彩な国際交流活動を推進するため、新たな交流協定を6件以上締結します。また、グローバル社会で活躍する人材育成を図るため、学生大使等100人以上の派遣を目指します。

研究 評価 病院

担当理事・副学長 **久保田 功**
KUBOTA Isao



■基本方針

世界をリードする研究・診療を実施するとともに、山形大学の更なる発展に資するため、厳格な自己評価を行います。

2017年度 行動計画

PLAN 1

大型研究種目（特別推進研究、基盤研究S・A）への応募を支援する仕組みを整備し、10件以上の応募を目指します。

PLAN 2

研究活動の更なる活性化を図るため、学術研究院設置の趣旨（教員組織の一元化）を踏まえ、研究組織の体制整備を行います。

PLAN 3

年度計画に係る法人評価について、各部局等からの資料収集業務の効率化を図り、審議のための時間を十分に確保します（現状：約1ヶ月半→目標：約2ヶ月）。

PLAN 4

健全な病院経営を推進するため、経費抑制のための取組を更に推し進め、医療費を1億円削減します（平成28年度比）。

PLAN 5

医療の国際化への取組として、外国人患者の院内受入体制の整備を行います。

EM・IR 入学試験 社会連携

担当理事・副学長 **大場好弘**
OHBA Yoshihiro



■基本方針

総合的學生支援（EM）と大学機関研究（IR）により大学経営改善に貢献するとともに、教育研究成果の社会還元により「地域創生」のエンジンとしての役割を果たします。

※「EM」はEnrollment Managementの略で、総合的學生支援と訳されるもの。

※「IR」はInstitutional Researchの略で、大学機関研究と訳されるもの。

2017年度 行動計画

PLAN 1

入学志願者確保のため、東北6県及び栃木県、茨城県、新潟県において高校教員を対象とした説明会を開催し、本学の強み・特色・入試方法等について説明するほか、アドミッション担当教員による高校訪問数500校以上を目指します。

PLAN 2

入学者の外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価する観点から、英語の資格・検定試験を平成31年度入試から推薦入試及びAO入試に導入するため、評価・判定方法を構築します。

PLAN 3

学内の諸活動を効率的に収集するシステムを導入し、本学の教育、研究、社会貢献に関する効果検証を行うためのKPI（Key Performance Indicators：主要業績指標）を3つ策定します。また、合格者専用のポータルサイトを構築し、合格者アンケートなど必要な情報を早期に収集するシステムとして運用します。

PLAN 4

「産学官連携推進本部」を新たに設置し、大型研究プロジェクト等の支援を行うとともに、新たな大型研究プロジェクト（1,000万円以上）の獲得を3件以上支援します。

PLAN 5

東北創生研究所において、地域の課題に係るプロジェクトの研究成果を活用しつつ当該地域と連携し、第3期中期計画では、3件以上の実証結果を取りまとめることとしているため、単年度では、1件以上の実証結果を取りまとめます。

総務 広報

担当理事・副学長 **阿部宏慈**
ABE Koji



■基本方針

学長を中心として効率的な大学経営を更に推進します。また、多様な人材を育成するための人事制度及び教職員が能力を発揮できる職場環境を整備するとともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、ダイバーシティ環境の構築を進めます。さらに、情報発信の多様化と国際化を推進します。

2017年度 行動計画

PLAN 1

「山形大学広報戦略」により、戦略的なメディアミクスを展開します。また、日本語版、英語版、それぞれの動画配信を増やし、合計視聴回数の前年度比15%増を目指します。

PLAN 2

事務職員の人事評価制度について、役割達成度評価と職務行動評価の内容や評価時期を見直すとともに、それぞれの評価結果を、昇給や賞与等の人事上の処遇に適正に反映させる制度を整備します。

PLAN 3

教員の年齢別構成人数の均衡化を図り、組織を活性化するため、新規採用教員のうち5割以上を37歳以下にします。

PLAN 4

山形大学基金について皆様からのご理解・ご支援をいただけるよう丁寧に募金活動を展開し、基金の拡充を図るとともに本学の学生支援、教育研究支援、国際交流支援等の事業の更なる充実に繋がります。
【募金活動計画額：3,000万円】

PLAN 5

女性活躍の一層の推進を図るため、各キャンパスへの保育所整備を目指します。また、時間外勤務を縮減し、ワーク・ライフ・バランスを実現するための管理職研修やシンポジウムを開催します。

財務 施設 危機管理・業務改善

担当理事・副学長 **小島 浩孝**
KOJIMA Hirotaka



■基本方針

教育・研究・診療及び社会貢献など、本学の役割を確実に果たしていくために、効率的、効果的及び健全な財務運営を目指すとともに、本学の理念に相応しいキャンパス環境の整備充実を計画的・重点的に推進します。

また、法令遵守及びリスクマネジメント体制を整備して内部統制機能を強化するとともに、業務の見直し及び改善を不断に推進します。

2017年度 行動計画

PLAN 1

「新たな収入の増を考えるプロジェクトチーム」が提言した「提案書」の進捗状況を確認しながら、自立的かつ持続的な経営を行うために6,000万円以上の自己収入の増を図ります。

PLAN 2

「山形大学における経費抑制に関する行動計画」に基づき、各推進員の活動により法人本部及び法人部局に高いコスト意識を浸透させるため、チェックリストによる取組状況調査を実施し、その中から効率的な取組を発信していくなどして情報の共有化を図り、一般管理費比率を2%台に維持します。

PLAN 3

エコキャンパス整備支援事業（学内公募）などにより、平成28年度に鶴岡キャンパスで実施した省エネ診断の結果に基づく空調の効率改善等を含め、地球環境に配慮した施設整備を10件以上実施します。

PLAN 4

役職員及び学生の法令遵守等に関する知識、意識等の向上を図るため、「コンプライアンス推進規程」、「コンプライアンス指針」等に基づく研修・講習等を年2回以上開催し、各部局においても教育・研修等を促すとともに、リスクモニタリング結果等の共有を徹底します。

PLAN 5

全事務組織で「山形大学労働生産性向上プロジェクト」を実施し、全課全室において1件以上の業務の見直し・改善を行うとともに、電子決裁、ペーパーレス化を推進し、超過勤務手当の削減（前年度比10%減）等を図ります。

教育組織の改編

山形大学は、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学を目指して、平成29年4月に5学部・2研究科で組織の改編を行いました。

詳細は、ホームページをご覧ください。 <http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/entrance/about2017/>

学部

(平成29年3月まで)

(平成29年4月から)

人文学部

入学定員 (300)

人間文化学科 (100)
法経政策学科 (200)

人文社会科学部

入学定員 (290)

人文社会科学科 (290)

地域教育文化学部

入学定員 (240)

地域教育文化学科 (240)
児童教育コース (80) スポーツ文化コース (20)
異文化交流コース (20) 食環境デザインコース (35)
造形芸術コース (15) 生活環境科学コース (25)
音楽芸術コース (20) システム情報学コース (25)

地域教育文化学部

入学定員 (175)

地域教育文化学科 (175)
児童教育コース (80)
文化創生コース (95)

理学部

入学定員 (185)

数理科学科 (45) 生物学科 (30)
物理学科 (35) 地球環境学科 (30)
物質生命化学科 (45)

理学部

入学定員 (210)

理学科 (210)

工学部

入学定員 (620)

【昼間コース】
機能高分子工学科 (110) 情報科学科 (75)
物質化学工学科 (75) 電気電子工学科 (75)
バイオ化学工学科 (60) 機械システム工学科 (115)
応用生命システム工学科 (60)
【フレックスコース】
システム創成工学科 (50)

工学部

入学定員 (650)

【昼間コース】
高分子・有機材料工学科 (140) 機械システム工学科 (140)
化学・バイオ工学科 (140) 建築・デザイン学科 (30)
情報・エレクトロニクス学科 (150)
【フレックスコース】
システム創成工学科 (50)

農学部

入学定員 (155)

食料生命環境学科 (155)

農学部

入学定員 (165)

食料生命環境学科 (165)

※ 医学部は改編なし。

大学院

(平成29年3月まで)

(平成29年4月から)

理工学研究科 (理学系)

入学定員 (58)

数理科学専攻 (M) (11) 生物学専攻 (M) (9)
物理学専攻 (M) (12) 地球環境学専攻 (M) (8)
物質生命化学専攻 (M) (13) 地球共生圏科学専攻 (D) (5)

理工学研究科 (理学系)

入学定員 (58)

理学専攻 (M) (53)
地球共生圏科学専攻 (D) (5)

医学系研究科

入学定員 (69)

医学専攻 (4年制D) (26) 生命環境医科学専攻 (M) (15)
看護学専攻 (M) (16) 生命環境医科学専攻 (D) (9)
看護学専攻 (D) (3)

医学系研究科

入学定員 (69)

医学専攻 (4年制D) (26) 先進的医科学専攻 (M) (15)
看護学専攻 (M) (16) 先進的医科学専攻 (D) (9)
看護学専攻 (D) (3)

※ (M)は博士前期課程、(D)は博士後期課程の略。

※ 社会文化システム研究科、地域教育文化研究科、理工学研究科 (工学系)、有機材料システム研究科、農学研究科及び教育実践研究科は、改編なし。



Yamagata University Annual Plan 2017

アニュアルプランは毎年度達成状況を検証します。
ご意見・ご要望は、下記までお願いします。

【編集発行】山形大学役員会

【お問い合わせ先】山形大学企画部企画課

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12

Tel : 023-628-4190 Fax : 023-628-4849

e-mail : kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【ホームページ】<http://www.yamagata-u.ac.jp>